

事業の背景・目的

シカ食害を主な原因として、九州島のシダ植物はシカ食害を主な原因として希少化が進行している。放置すれば、その多様性が失われることにより、生態系の破壊をはじめ様々な影響が出ることが考えられる。本事業では、九州島に生育する国内希少野生動植物種であるキシマイワヘゴ、ヒュウガシケシダ、クマヤブソテツ、フクレギシダ、サクラジマイノデの調査と生育域外を実施することを目的としている。

事業の内容

以下の三つの事業を行った。中心となるのは事業②である。

事業① 情報収集事業
生育域外保全を行っている国立科学博物館筑波実験植物園、新宿御苑を視察した。前者では見本園に加えバックヤードをも視察することができた。

事業② 生育調査・孢子培養事業
対象5種について、当初の予定通り7か所にて調査を行った。そのうち熊本県多良木町のキシマイワヘゴは確認できなかった。その代わり、宮崎県高原町にて新たな生育地が発見された。

事業③ 生育域外保全の環境作り事業
タイマー付きミスト散水装置を設置した。1日2回、各10分間の自動散水を行っている。

得られた成果

対象5種すべての孢子を得ることができた。そのうちキシマイワヘゴはかつての生育地である熊本県多良木町で確認することはできなかった。しかしながら、宮崎県高原町にて新たな生育地が発見されたことを受け、現地で調査できたことは大きな成果であった(左写真)。キシマイワヘゴは孢子に加え、株も採取することができた。
現在、ヒュウガシケシダ、キシマイワヘゴ、フクレギシダ(2系統)、サクラジマイノデが人工気象器内で育成中である。前葉体の発芽を確認している。クマヤブソテツ(2系統)はヘゴ板に孢子を撒いたが、成長がとても早く孢子体の出現を確認しており、3か月以内の鉢上げを見込んでいる。

